

オフィスが不要となる時代

2020年現在、世界中で大きな影響を与えているのが「新型コロナウイルス」である。その影響により、オフィスでの作業が制限され、たくさんの企業で「在宅ワーク」が採用されている。この働き方は、人が集まることなく作業が行えることで採用されていることが多いが、それ以外にも様々なメリットがあり、これからの働き方の一つとして考えていく必要がある。

「在宅ワーク」のメリット

- ・勤務先へ行くための交通費や移動時間を減らすことができる。
- ・一人だけの空間であるため、会議や会話などでの作業の中断が減り、集中して作業を行える。
- ・育児期間中の社員や、介護を必要とする家族がいる社員は、移動時間で使っていた時間を、育児や介護で使えるため、長期休暇や退職、転職が減り、会社にとっても優良な人材を残すことができる。

このようなメリットから・・・

時代とともにインターネットや設備の技術が進歩していくと、オフィスが不要な世の中となり、「在宅ワーク」が30年後の働き方の主流になっていくと考える。

在宅ワークが主流になると・・・

第一に考えなければいけないのが、外に出る機会が減ることである。外に出ないことで、運動不足や免疫力低下により、健康への影響を及ぼす可能性があると考えられる。

そのため、自宅で過ごすことが増えた30年後、「在宅ワーク」をする上で、集中を切らすことなく、健康に、そして快適に作業が行える設備環境とはどのようなものか考える。

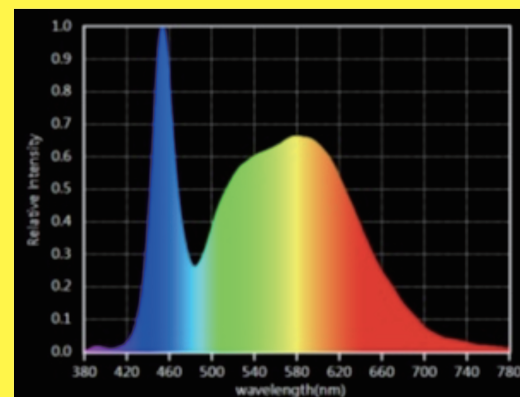
・太陽光に近いスペクトルの照明

太陽光を浴びることは、人間にとって一日の生活リズムを作り出すものであり、在宅ワークが増え、外に出る機会が減ると、太陽光とは疎遠の関係となってしまう、生活リズムが崩れてしまう。

また太陽光には、集中力向上や気分を安定させる「セロトニン」という脳内物質を分泌する効果があり、太陽光は、仕事や勉強をする上で必要な要素であると言える。

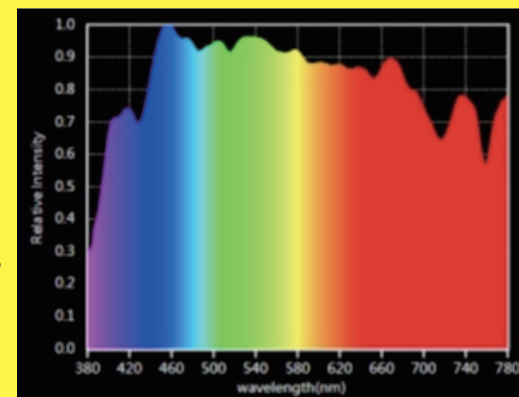
そこで、スペクトルを自分で管理することのできる照明を使用する。

そうすることで在室者は、照明によって太陽光に近い明かりを浴びることができる。また太陽光だけでなく、食事や睡眠時に合わせた明るさや色の照明に調節することができ、使っている本人が光色を自在に調整して、好みの光色を創り出すことができれば、更に快適な条件で暮らすことができる。



一般的なLEDのスペクトル (ケイエルブイ株式会社HP参照)

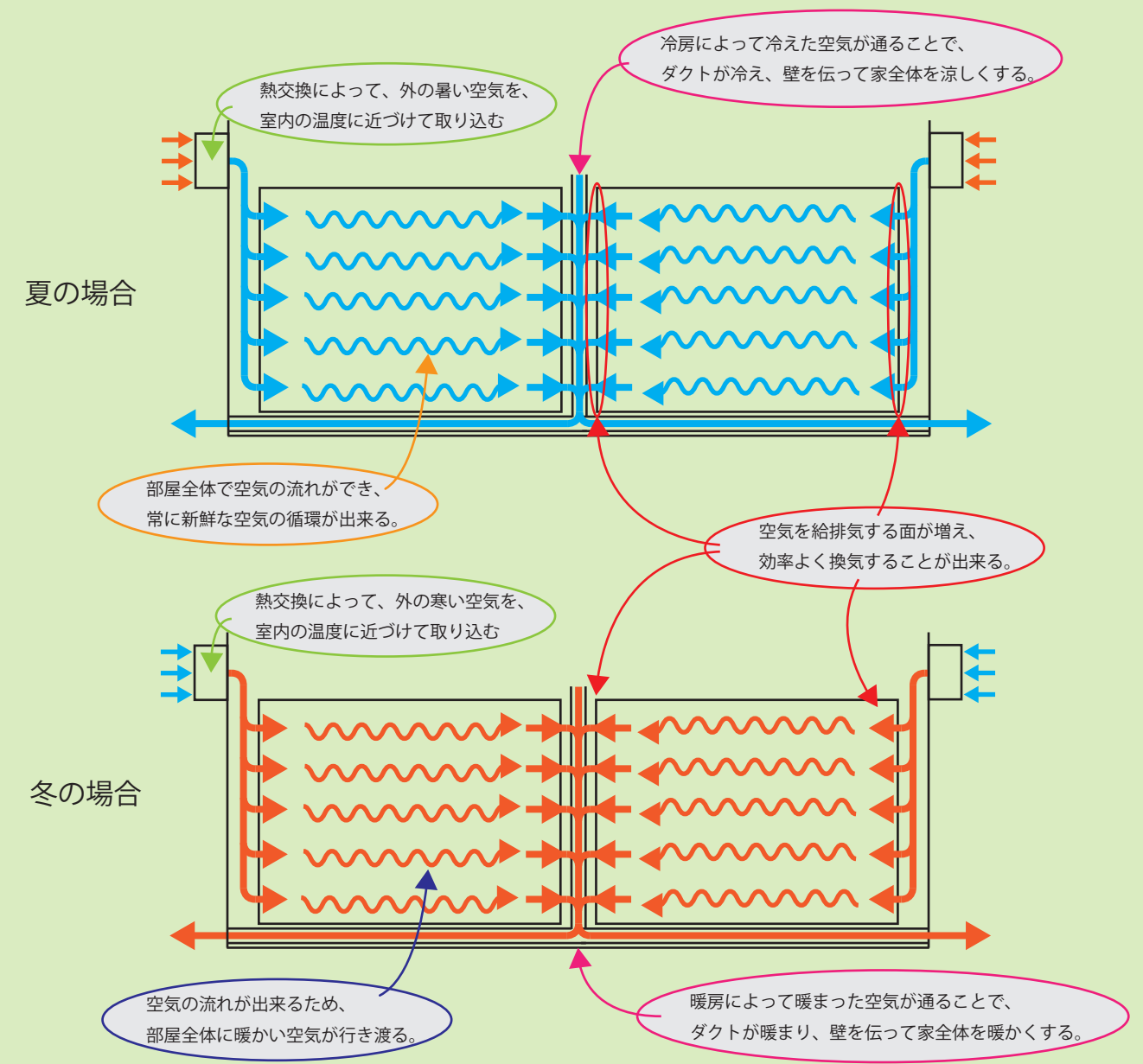
スペクトルを近づけていく
→
このスペクトルの変更を自分で行える



太陽光のスペクトル (ケイエルブイ株式会社HP参照)

・壁による換気

冷房や暖房を使用する時期になると、自分で窓を開けて換気をすることが疎かになり、工作中であればさらに疎かになってしまう。そのため24時間換気システムの設置が義務付けられているが、空気の給排気を屋内の壁全体で行うことで、部屋全体の空気を連続的に入れ替えることができ、窓を開けなくても効率の良い換気が行えるのではないかと考える。



・在室者の体調に対応出来る空調

部屋のあらゆる場所にセンサーを設置し、そのセンサーが部屋の温度や湿度の測定だけでなく、在室者の行動や体調を観察し、自動的に最適な部屋環境になるよう管理する。

温度：在室者の体温や体調、活動内容に合わせて温度を調整する。

湿度：在室者が蒸し暑さを感じたり、結露が生じないように調整する。

気流：部屋全体の温度をセンサーが測定し、部屋全体が快適な環境となるように管理する。

また、清浄領域から汚染領域へと空気を流す管理も行う。

空気清浄度：部屋の臭気、塵埃、微生物、放射性物質、蒸気などをセンサーが感知し、除去する。

気圧：悪天候での気圧の変化によって頭痛を引き起こしてしまうため、天候など状況に合わせた気圧管理を行う。